

2022(令和4)年度第1回編集委員会

日 時：2022(令和4)年4月16日(土) 14:00~15:00

場 所：ホホテル グランデはがくれ(現地)とZoom

出席者：高橋 聡、盛田俊介、石井良和、大川龍之介、上岡樹生、栢森裕三、静 怜子、
べ谷直人、清宮正徳、中山智祥、萩原三千男、日高 洋、藤巻慎一、外園栄作、
前田育弘、松下 誠、和田隆志、(事務局：田原)

欠席者：村上正己、横田浩充、阿部正樹、氏家真二、大久保滋夫、白井秀明、千本松孝明、
春木宏介、萱場広之、康 東天、竹越一博、南木 融。野村文夫、菱沼 昭、
三橋知明、行正信康

(敬称略)

議 事 録

1. 2021年度拡大編集委員会議事録の確認

- ・資料1に基づき高橋委員長が説明し、ご意見がある場合はご連絡いただくようお願いしました。

2. 新編集委員のご紹介

- ・高橋委員長は、編集委員に推薦していただいた資料2の8名の先生に新編集委員に就任していただいた旨、報告した。

ただ、本日開催の理事会の議題に挙げるのを失念していたので、次回の理事会で正式に承認いただく予定である旨、説明をしてお詫びした。(追：編集委員長の勘違いで1月の理事会で承認済みでした)

3. 2022年度(第29回)論文賞受賞者

- ・高橋委員長が論文賞の審査経過を説明し、資料3の2名の先生が、本年度の論文賞受賞者に決まった旨、報告した。
- ・論文賞の選考方法について
 - ・現在の4グループに分けて、1位を決めるや在り方では、他のグループの1位よりも良い2位の論文もありうる。
 - ・今年度も受賞論文は2編とも原著なので、原著論文のみを論文賞審査の対象にしたらどうか。

などの意見があり、高橋委員長は審査方法の見直し(改正)を検討してみる旨、答弁した。

4. 過去5年間の投稿論文の採択率他

- ・高橋委員長は資料3に基づいて、過去5年間の投稿論文の採択率などの説明をした。
- ・編集幹事推薦の投稿論文が、2ヶ月近くの時間を経て reject された。そこで、編集幹事投稿推薦論文の reject 率を尋ねたところ 42.9%との回答を得た。これでは推薦する意義があまりないと考える。この件について編集幹事推薦は止めて、学会大会座長に推薦していただくように変更した方がよいのではないかなどの意見があったが、最終的に高橋委員長および発言した委員ともに、編集幹事推薦の制度はやめた方がよいとの意見の一致をみた。

5. 査読に対するクレームについて

- ・高橋委員長が3回目の査読で reject になった論文の著者から、3回目の査読で reject にすることにクレームがあり、そのクレームについては理解できる点もあるので、reject は早い段階ですべきなどの見解を述べるとともに、詳しい経過を説明された。

それに関連して下記の意見があった。

- ・再投稿で、最初の査読意見に対応できていない場合は、改めて査読意見に対応するように求めるのはまずいのかとの質問があり、高橋編集長は査読意見に対応していないのであれば、reject にしてもよいのではないかとの見解を述べた。
- ・査読意見が割れた時は、3人目の査読者に意見を求めるよりも、時間的にも編集長が査読の判断決めたらよいのではないかとの意見があり、高橋委員長は見直しも含めて検討する旨、答弁した。
- ・投稿論文の中には、論文の体をなしていない酷いものもあるので、事前に編集長が査読に回すかどうか判断する必要があるのではないかとの意見に対し、高橋委員長は、今後はそのようにしたい旨、答弁した。

また、今までは査読に問題があった場合か、査読意見が割れた場合しか査読結果を見ていなかったもので、今後は、全ての査読状況を把握すると述べた。

6. その他

- ・特になし。

以上